

出演する振付家・ダンサーへの質問（木村覚より）
回答者：山田歩

（1）自分の方法論を言葉にしてもらえませんか。

日常において「場」と「間」は密接な関係にあります。
「場」と「間」とは、それぞれを言い換えると「空間」と「時間」です。
これら二つの要素は私の表現手法にはなくてはならないものです。
というのは、「場」と「間」は行為を行う者と、周囲との反応関係があってからこそ成り立つものであり、行為者である私はそれらを強く認識せざるを得ません。
つまり、私の仮面をかぶって外部に飛び込む行為は、日常に溢れるあらゆる「場と間」を、行為者である私自らの身体を用いて切り取ることです。

（2）作品を作る際にもっとも心がけていることは何ですか。

場所に馴染む空間作りです。主に鉄を扱う造形制作の時ですが、準備は周到に、作業は手早く、仕上げは細部まで。

（3）意識している同時代の作家はいますか（ダンス／その他のジャンル）、その理由を教えてください。

岡本芳一（百鬼どんどろ主宰）
理由：〈百鬼どんどろ〉とは、等身大の人形と仮面を使って舞台活動をしている集団です。彼らの舞台を観た経験が、仮面を使う一つのきっかけになっています。時には忘れることもありますが、よくよく考えると僕の意識に彼らがあると思います。

（4）意識している過去の作家はいますか（ダンス／その他のジャンル）、その理由を教えてください。

土方巽
理由：意識している、というよりも今興味がある人物です。最近、彼について調べ始めました。舞台活動よりも、彼の肉体に関する文章に惹きつけられます。

（5）いまのコンテンポラリー・ダンスをめぐる環境についてどう考えていますか。問題点、課題は何ですか。

コンテンポラリー・ダンスの公演を観に行くと、観客席で僕が一方的に見たことのある方が多い印象を受けます。ですが、ダンスは観たい人が観れば良いと僕は思います。
正直なところ、実際のコンテンポラリー・ダンスをめぐる環境の現状を把握していません。

（6）ダンスの批評の現状についてどう考えていますか。問題点、課題は何ですか。

批評された経験も、批評文を読む機会がないので、正直よくわかりません。

（7）今後の作品作りで、心がけようと考えていることはありますか。あれば、それはどんなことですか。

（2）の回答と同じですが、それに加えて行為を行う前のある程度、明確な目的を持つことです。